

平成29年度 活動報告 (年報)



国有林見学会（秋季）



空木岳周辺における植生復元作業



オオヤマレンゲ 赤沢自然休養林内

林野庁 中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター

平成30年3月30日発行

〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7

TEL 0264(22)2122 FAX 0264(21)3151

E-mail : kiso-fureai@maff.go.jp

一年を振り返って

平成29年4月は人事異動がなく新年度が始まりました。

今年度当センターが行った取り組みの一部を簡単に紹介させていただきます。

ニホンジカ対策は近年、重要な課題となっています。平成28年度から実施している中央アルプス高山帯及び亜高山帯におけるニホンジカの侵入調査をセンサーカメラにより引き続き実施した結果、今年度においても確認されました。木曾駒ヶ岳木曾側山麓において、ライトセンサスによるニホンジカの個体数調査を長野県、木曾森林管理署と連携し5月から12月の月1回実施しましたが確認はできませんでした。（センサーカメラによる生息は確認。）

また、クマの錯誤捕獲が発生していることから、錯誤捕獲対応くくりワナの使用と効率的に捕獲する為の誘導柵の設置や誘導材を使用した実証試験も行っています。

木曾路の森林に親しみながら森林の大切さを理解してもらう事を目的に、木曾路の散策コース12カ所を巡る「木曾路トレッキングコース」と、普及版としての赤沢自然休養林内で完結する「赤沢自然休養林トレッキングコース」を、平成28年4月29日から平成29年11月12日まで行いました。「木曾路トレッキングコース」は、県内を始め関東、中京、関西方面等幅広い地域の皆様にチャレンジして頂きました。「赤沢自然休養林トレッキングコース」は、中部森林管理局が所蔵し平成29年5月23日に林業遺産にも登録された木曾式伐木運材図会の1場面を6分割したもので、第3弾を4月の自然休養林開園時、そして第4弾を9月下旬より実施しました。参加者のアンケート結果によりますと、地域別では北関東から四国まで、地元長野県や愛知県等の中部地方で約80%を占めました。年齢別では50歳以上が約60%となりました。

今年度新たに「中山道 木曾十一宿 パズルラリー」を11月から開始しました。これは、木曾谷の観光ルートである木曾街道にちなみ、集客効果の波及をパズルラリーに期待し、長野県塩尻市贄川（にえかわ）宿から岐阜県中津川市馬籠（まごめ）宿の十一の旧宿場で、木曾郡木曾町と木曾郡上松町を境に北部と南部に分け2種類の浮世絵が完成します。

このパズルラリーの取組を、「木曾谷支援の取組について」と題して林野庁で開催された「平成29年度国有林野業務研究発表会」で発表し、林野庁長官賞を受賞しました。

5月25日、10月24日の2回、国有林見学会を開催しました。木曾川の上流部には国有林が多く分布し、その下流部では愛知用水により、農業、工業、家庭等に水が供給されています。名古屋市熱田区白鳥は、江戸時代初期の名古屋城の築城を契機に木曾山等から豊富な森林資源を背景とした木材の流通が盛んに行われた歴史があります。

この見学会は、木曾川下流域の名古屋市を中心とした住民の方々に、木曾川上流の国有林を訪ねていただいて、木曾地域の林業のあゆみ、木材輸送方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産）及び名古屋の白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生産地等を見学していただくことにより、江戸時代から現在まで深いつながりをもつ木曾との関連について理解していただくことを目的に行っています。

業務内容の一部の紹介となりましたが、1年間多くの方々と森林を通してふれあうことができたのも、当センターの業務に協力していただいた多くの関係者の皆様に感謝いたします。

[所長：新家孝之]

活動内容等

第1	支援体制の整備	
1	木曽地方支援イベントの開催	… 1
2	地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援	… 4
3	木曽川下流住民による森林整備に対する支援	… 6
4	小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催	… 7
5	森林ボランティア・NPO連携推進会議の開催	… 8
第2	温帯性針葉樹林「木曽悠久の森」における取組	
1	地元住民等への講座の実施	… 10
2	第2回木曽悠久の森写真コンテストの開催	… 11
3	間伐実施林分における更新種の発生状況に関する調査等	… 11
第3	NPO等との連携による自然再生の推進及び森林環境教育等の支援	
1	自然再生の推進	… 12
第4	ニホンジカ対策	
1	センサーカメラによる生息調査	… 20
2	ライトセンサスの実施	… 21
3	捕獲実証試験	… 22
	年間の活動及び行事等	… 23

当センター設置の目的

- 1 国有林野等を活用して、NPO法人等が行う自然再生、生物の多様性の保全、その他森林整備の推進及び森林の保全の確保を図る取組に対する技術的指導その他の支援に関すること。
- 2 教職員等が行う森林の有する多面的な機能の発揮に関する教育及び学習に対する技術的指導その他の支援に関すること。

活動フィールド

主な活動区域を木曽森林管理署及び南木曽支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

沿革等

平成16年	4月	1日	木曽森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曽郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曽町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曽郡木曽町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曽郡木曽町福島 5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曽郡木曽町福島 1250-7)
平成25年	4月	1日	名称変更 「木曽森林ふれあい推進センター」

第 1 支援体制の整備

1 木曽地方支援イベントの開催

(1) パズルラリー

平成 26 年の御嶽山噴火災害の発生から 4 年目となる現在でも、木曽谷を訪れる観光客は噴火前の 76%にとどまっています。

当センターでは、この噴火災害の影響により観光客数が低迷する木曽地域の観光産業への支援を目的に、中京圏とのイベント交流や、木曽谷の復興支援ツアーのほかに、森林の大切さを理解してもらうことを目的とした「パズルラリー」を実施することとしました。

これは、木曽地域の観光関係者と連携し、平成 25 年度に作成した、木曽路ナチュラルトレッキングマップに掲載している木曽路の散策コース 12カ所にパズルピースを置き、ピースを 6 枚集めると 1 枚の絵が完成する「パズルラリー」を、「木曽路トレッキングコース」と、普及版として赤沢自然休養林内で短時間で完成する「赤沢自然休養林トレッキングコース」を、平成 28 年 4 月 29 日（金）から平成 29 年 1 月 12 日（日）までの期間で実施しました。



作成したマップ

① 木曽路トレッキングコース

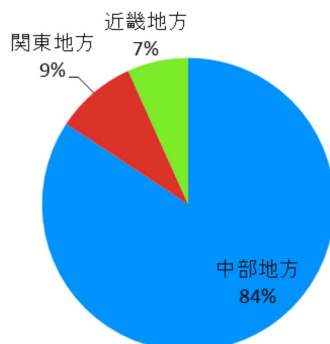
「木曽路トレッキングコース」は、木曽路美術館の協力により、江戸時代の浮世絵師「溪斎英泉」の木曽街道「馬籠」の絵を、地元産ひのき間伐材の板に直接カラー印刷したものを 6 枚のピースに分割し、木曽地域 6 町村別に 1 ピース置き、各町村の散策路にあるパズル箱や施設等を巡って 6 枚のピースを集めると絵が完成し、集めた 6 枚のピースを写真に撮り、当センターへ送ると台座を進呈するものです。

また、木曽路散策コース全 12カ所を制覇した者に、はがき大の地元産ひのき間伐材の板にカラー印刷した、歌川広重の「上ヶ松」と溪斎英泉の「伊奈川橋遠景」の浮世絵を進呈し 64 名の方が全 12カ所制覇しました。

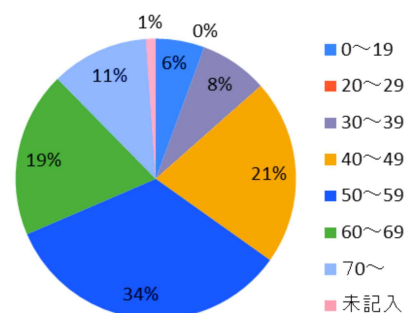
参加者の内訳は、中部地方居住者が全体の 84%を占め、年齢別では 50 代以上が 64%となりました。

普及版の赤沢自然休養林トレッキングコースパズルラリーも第 4 弾まで開催しました。

パズルラリー参加者の居住地



パズルラリー参加者の年齢構成





パズルラリー挑戦中



赤沢自然休養林 第4弾

② 中山道 木曾十一宿パズルラリー

木曾路トレッキングパズルラリー同様に、長野県の提唱する「つながろう木曾応援運動」の一環として、木曾谷の観光ルートである木曾街道を木曾郡木曾町の福島宿と木曾郡上松町の上松宿を境に南北に分け、街道沿いの旧宿場11箇所（福島宿は2箇所）にパズルを1枚ずつを配置（福島宿は2箇所）し、「木曾ブランド」を求めて訪れる方に11の旧宿場を繋ぐパズルラリーに興じてもらうことにより、観光客数の増加や木曾谷の連帯強化への波及効果を期待した取組です。

パズルの絵柄は、木曾路美術館の協力を得て美術館所蔵の歌川広重が描いた「木曾街道六十九次」から北部は「贅川」、南部は「上ヶ松」を採用し、「木曾路トレッキングパズルラリー」と同じく6分割したピースを旧宿場に設置したパズル箱の中に置き、6枚集めるとピースの張り板と台座を進呈するようにしました。

実施期間は、29年11月1日（水）から30年10月31日（水）まで、北部、南部でそれぞれ準備したパズル500セットが無くなり次第終了します。30年2月末時点で、38名の方々が達成しています。



中山道 木曾路十一宿（北部）



中山道 木曾路十一宿（南部）

木曾路美術館 所蔵

木曾谷では、来訪する観光客数が今だ御嶽山噴火前の水準には戻っていません。パズルラリーは、28年度から始めた事業であり、木曾谷の観光地への集客にもたらした影響は未知数ですが、協賛していただいた各団体からも「好評だった、継続して欲しい」との意見もあり、地元町村や観光協会等の協力を得ながら木曾谷支援の取組として、平成30年度も引き続きパズルラリーを実施します。

(2) 国有林見学会

木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会」を、5月25日(木)と10月24日(火)に開催しました。

この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曾地域と名古屋の関係や、日本の森林・林業について理解を深めてもらうこと、併せて木曾地域復興支援を目的に、下流域の都市住民の方々に、木曾川源流の国有林を訪



職員からの説明を聞く参加者(春季)

ねていただき、木曾地域の林業のあゆみ、木材輸送方法(伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産)及び名古屋の熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を実際に見聞きしていただく学習講座で、名古屋市内を中心にそれぞれ40名程度の一般参加者とガイドを行う国有林職員により実施しており、口コミ等により名古屋市民から好評をいただいています。

本番に先駆け、それぞれ当見学会の予備知識を深めるために名古屋市にある名古屋事務所敷地内の「熱田白鳥の歴史館」において、歴史と木材の利用をテーマとした展示の見学や事前学習会を行いました。

当日は、途中からバスに乗車した当センター所長から、赤沢自然休養林までの景勝地や赤沢自然休養林等の説明を受け、想いを膨らませながら木曾ヒノキの生地へ向かいました。

春の見学会は、あいにく朝から雨模様でしたが、赤沢自然休養林に到着後、中部森林管理局次長の歓迎のあいさつの後、昼食をとり、森林鉄道で木曾ヒノキの森林と溪流が織り成す景色を眺めながら終点「丸山渡停車場」に移動し、職員のガイドにより歴史とともに育まれてきた樹齢約300年余りの木曾ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の見分け方や特徴などを学びました。



班に分かれて説明を聞く参加者(秋季)

また、秋の見学会では、散策の傍ら赤沢自然休養林内で実施している「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」にも挑戦していただき、パズル箱から紙片のピースを集め、最終箇所の赤沢資料館で応募用紙に記入し、木製パズルを受け取りました。

参加者からは、「ヒノキとサワラの見分け方を学習した」「森林鉄道から見える赤沢の風景は美しかった」「パズルラリーも楽しかった」などの感想が聞かれました。

なお、この国有林見学会は木曾復興支援の取組に位置づけており、今後も実施にあたり参加者からの意見を企画に反映させ、より意義のある催しになるよう努めて参ります。

2 地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援

(1) 木曽郡植樹祭 王滝村・水と緑の感謝祭合同育樹祭

6月1日(木)、長野県木曽郡王滝村の松原スポーツ公園において、木曽森林管理署、当センター後援による木曽郡植樹祭と王滝村・水と緑の感謝祭合同育樹祭が開催されました。

当日は、晴天に恵まれ、式典では来賓の皆さんのあいさつや、王滝小学校児童による「みどりの宣言」等行われました。

式典後は、地元住民、地域関係者をはじめ林業関係者ら約500人が、イロハモミジ、オオモミジ、ドウダンツツジの3種240本を植栽するグループと、公園内のアキグミ植栽木が大きくなり混み始めたことから除伐を行うグループとに別れ作業を行いました。



記念写真

(2) 木曽地区みどりの少年団交流集会

木曽地区のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心を育むことを目的とした木曽地区みどりの少年団交流集会が、7月31日(月)に長野県木曽地域振興局の主催で開催され、当センターも技術指導のために参加しました。

当交流会は木曽地域の町村で毎年実施されており、今年も昨年につづき木祖村「こだまの森」を会場に11の少年団、引率教員、主催者、指導者等含めて約150名が参加しました。



フィールドビンゴの様子

各みどりの少年団による活動発表の後、各グループに分かれ自己紹介を行い、シラカバの輪切りにマジックで各自の名前を記入した名札や葉の形に成形した木片に紐を通してできる木製カバンホルダーの作製を行いました。

午後からは会場に隣接する森でフィールドビンゴを行い、皆でヒノキ、カラマツなどの樹木やハリギリ、ウリハダカエデなどの葉を探してはビンゴカードに記入しました。参加者の間では良い交流の場となりました。

(3) 木曽川水源地域の森造り協力事業 NPO法人 緑の挑戦者

愛知県名古屋市のNPO法人「緑の挑戦者」は、木曽郡内3町村と森林整備協定を結び、木曽川下流域の市民による森林整備を行っており、当センターでは該当町村（本年度は木曽郡木祖村）の派遣依頼を受け、技術指導を行いました。

6月3日（土）は、木祖村奥峰地区の村有林で、企業で参加された方をはじめ家族連れなど58名が参加し、カラマツ林の下層木を中心に除伐作業を行いました。



除伐作業中

(4) 「ふれあいの森」森林整備 NPO法人 地球緑化センター

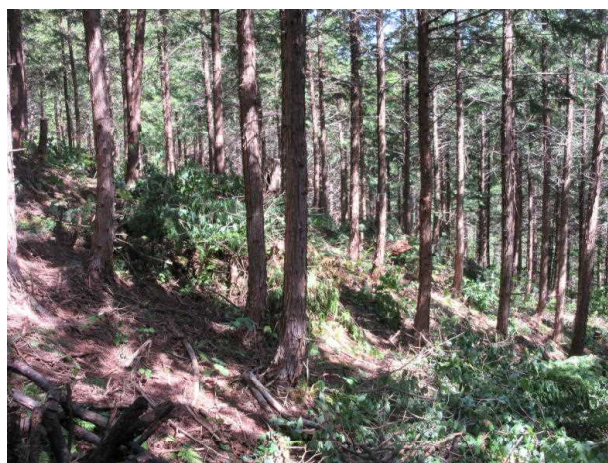
NPO法人「地球緑化センター」は、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムを開始し、その後、「ふれあいの森（名称：『大樹の森・赤沢』）」の協定を締結以降、毎年森林整備を実施しています。

今年度は6月3日（土）、4日（日）と10月14日（土）、15日（日）に延べ53名がヒノキ除間伐作業を行い、当センター及び木曽森林管理署職員から伐倒方法の手順、かかり木処理の仕方などの安全指導を受け無事作業を終了しました。その後、天然更新試験地の見学、ヒノキ等の更新メカニズムや保育の大切さの説明を受けました。

あいにく10月15日は朝から雨天となったことから、除間伐作業は中止し、赤沢休養林内において木曽地域の林業のあゆみ、木材輸送法、御神木伐採跡地の見学、木曽五木の特徴などの説明を当センター職員が行いました。



作業中



作業後の林内の様子

3 木曽川下流住民による森林整備に対する支援

(1) 「平成の名古屋市民の森づくり」事業の支援

愛知県名古屋市では、名古屋城本丸御殿復元事業で、木曽ヒノキが材料として使用されることから、使用するだけでなく植栽、育樹を行い上流域である木曽地域の豊かな自然環境を将来に残そうと、「市民による森づくり」の活動が5月13日（土）に木曽郡木曽町の町有林で行われ、今回で9回目となります。

当日はあいにくの雨降りとなりましたが、開会式の後に、森林組合の職員によりチェーンソーによるカラマツの伐倒の実演があり、カラマツが倒れる瞬間の迫力に参加者からは大きな歓声が上がりました。

その後名古屋市からの一般募集市民120名と関係者合わせて200名は、雨具を身に付けヒノキやコウヤマキ、また、クリやミズナラなどの広葉樹800本の苗木を植めました。

当センターでは、職員派遣依頼を受けて作業用具の貸し出しと、技術指導を行いました。



雨の中で植付をする参加者

(2) みよし市友好の森ふれあいツアー（みよし市・木曽町交流事業）

愛知県みよし市は、みよし市が木曽郡木曽町三岳地区内に水源涵養林として保有している「友好の森」の保全活動を通じ、市民の皆さんに森林保護保、環境保全等の啓発を行うとともに、上下流域交流を図ることを目的に「みよし市友好の森ふれあいツアー」を平成15年度から開催し29年度で15回となります。

9月16日（土）は一般参加の市民39名（内小中学生23名）と、みよし市職員7名が5班に分かれ、作業現地までの森林散策を行い木曽町三岳支所、木曽地域振興局、木曽森林管理署及び当センター等の職員から伐倒方法等の指導を受けた後、2～3人で間伐作業を行う予定でしたが、開会式直前から雨が降り出し予定を変更して木工工作体験となりました。

参加した人たちは、作った作品を各々持ち帰るなど好評でした。



木曽署職員による木工工作指導

4 小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催

8月7日（月）赤沢自然休養林で、木曾地域の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を実施しました。

この学習会は、小・中学校の教職員に国有林を主なフィールドとして、森林・林業の役割や国有林への理解、森林環境教育の重要性についての認識を高めて学校教育の中に積極的に導入してもらうことを目的に、長野県との共催により平成14年度から実施しているもので、今年で16回目の開催となります。



学習会の開会式



天然林と人工林の説明を受ける参加者（ほうのき峠）

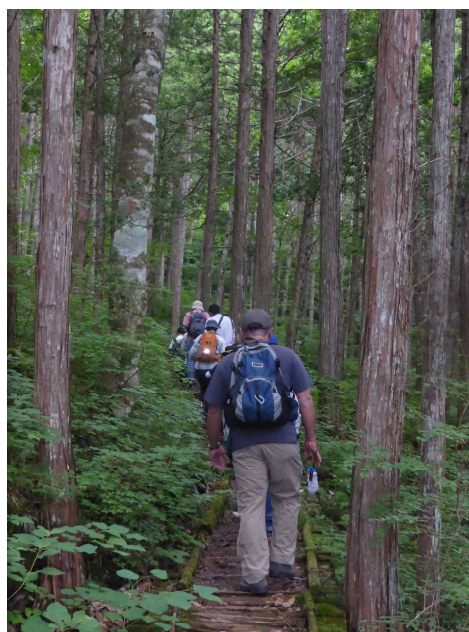
当日は、木曾郡内の教職員8名及び関係者4名の計12名で、旧学術参考林の奥千本を目指すコースを予定していましたが、台風の接近により午後から荒天が予想されたため、予定コースを若干変更しての開催となりました。

一行は、上赤沢コースの人工林内を散策し、ほおのき峠で高齢人工林と針広混交天然林の対比を見聞したのち、さわら窪へ移動し、およそ300年生のサワラを主体とする天然林の勇壮さに感心していました。

廃道となった森林鉄道軌道跡では、ヒノキとサワラの見分け方やアスナロの特性等について学び、その後、七兵衛沢沿いに遡り、ウルシ沢天然林に展開する根上がりのヒノキ天然木など、赤沢自然休養林に残存する温帯性針葉樹の神秘に見入っていました。

お昼過ぎに、出発点の森林セラピー館前に着いた頃には雨模様となり、次回の参加もお願いして少し早い散会としました。

参加者からは、「他の教員にも広めたい内容である」「300年生のヒノキを目前にして人間の一生の短さを感じた」などの貴重な感想が寄せられました。



上赤沢コースの人工林内を散策

5 森林ボランティア・NPO連携推進会議の開催

中部森林管理局管内で活動する森林ボランティア団体やNPO法人との交流促進及び情報交換や相互研鑽を行うことで、ボランティア団体等の更なる資質の向上を図るとともに、広く一般の皆さんに対し国民参加の森林づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に10月13日（金）、14日（土）に開催し、11団体と局署職員併せて46名が参加しました。

開催1日目は、あいにくの小雨模様の中での開会式となりましたが、開会式終了後、参加団体の国有林への見識を広げてもらうため、参加者全員で霧ヶ峰高原にある南信森林管理署東俣国有林内の八島湿原へ移動しました。



首席森林官からの説明

到着したころには雨もやみ、南信森林管理署下諏訪森林事務所首席森林官から、八島湿原の概要や生息する動植物の説明、ニホンジカ防護柵の設置状況等の説明を聞き、秋深い八島湿原の散策を楽しみながら、隣接する「八島ビジターセンターあざみ館」の見学を行い、2日目の会場となる、あすなろ公園に移動し、それぞれ10のブース毎に分かれ、翌日の打合せを行い1日目を終了しました。

2日目は、諏訪地域の一般市民の皆さんに参加にして頂く「森・ふれあいフェスタ」を開催しました。

開催会場のあすなろ公園が前日からの雨でぬかるんでおり、公園横の屋内運動場に会場を移したことから、火を扱う人気の青竹パン作りは残念ながら中止となりましたが、事前に下諏訪町役場がチラシの配布等をしてくれたおかげか、開催時間前に、数組の親子連れが会場に訪れ、木製のパーツを組み立てるミニイス作りや、竹とんぼ作り、木工細工などのブースや、土からできた不思議な絵の具を使ったドパスアートなど、様々な体験を楽しんでいました。

また、下諏訪町の観光PRキャラクターで八島湿原に生息する「シュレーゲルアオガエル」をモデルにした「やしまる」は子供達に大人気で、次々と握手をしたり記念



NPOの皆さん



PRキャラクター「やしまる」くん

撮影をするなど、さらに盛り上がりました。

雨天で会場が屋内運動場になったことから、昨年より来客数は少なく延べ450名の参加者となりましたが、木や自然素材の数々と触れ合ってもらえる機会をつくることができ「楽しかった」「また参加したい」「来年も企画してほしい」との声が聞かれました。

今年度から、主催がボランティア団体の代表による実行委員会に移り、中部森林管理局は後援となりましたが、協力した局署の職員も、様々なNPO団体等と接する機会となり、また、参加したボランティア団体の皆さんも、2日間を通して充実した連携・交流の場となりました。

【参加団体】

- ・ NPO法人戸隠森林植物園ボランティアの会 ・ 一期会
- ・ NPO法人やまぼうし自然学校 ・ NPO法人森林環境 ・ 城山史跡の森倶楽部
- ・ 金華山サポーターズ ・ NPO法人ぎふし森守クラブ
- ・ NPO法人飛騨小坂200滝 ・ NPO法人名古屋シティフォレスター倶楽部
- ・ 加子母スカイウォーカーズ ・ 国土防災技術株式会社



ミニイス作り



かんなくずプール



木工細工



竹とんぼ作り



丸太切り



ドパスアート



ヒノキ箸作り



竹笛作り



ブリッジ積木

第2 温帯性針葉樹林「木曽悠久の森」における取組

天然のヒノキ、サワラ等を交える木曽地方の森林は、良質の木材産地として古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たし、温帯性針葉樹がまとまって自然度の高い状態を構成していることから、世界的にも貴重な森林となっています。

中部森林管理局では木曽地方（長野県木曽地域及び岐阜県裏木曽地域）の温帯性針葉樹林の保存と復元を図る取組を通じて、先人たちが守り育ててきた森林からもたらされる、さまざまな恩恵を将来にわたって維持できるようにすることを目的に「木曽悠久の森」を設定し、当センターでは局・関係署等の連携を通じてPRに取り組んでいます。



温帯性針葉樹林（長野県木曽郡王滝村）

1 地元住民等への講座の実施

6月24日（土）「赤沢自然休養林ガイド養成講座」、8月4日（金）に「木曽山林協会林業職員部会研修会」の各講座が赤沢自然休養林で行われ、木曽悠久の森の取り組みについて、現地見学を交え説明を行いました。

現地見学は、核心地域のうち天然林を厳格に保存する「コアa」と、人工林から天然林へ復元する「コアb」の区域境となる「向山コース」にて、異なる林相を対比しながら、取り組むべき課題、将来の森のイメージ等について説明を行い、参加者からは、「実際の森林を見ながらの話しが聞けて良かった。」「この先数百年にかけての取り組みには驚いた。」といった感想が寄せられました。

今後も関係団体等と連携して、多くの方に木曽悠久の森の取り組みについて理解を深めていただける機会を作っていきたいと考えています。



座学と現地見学のようす（6月24日）

2 第2回木曾悠久の森写真コンテストの開催

天然ヒノキ、サワラ等が生育する森林「温帯性針葉樹林」を守り育てていく取り組みとして、人工林の優良木材を得ながら、広がりをもって永続する天然林へ復元を行う作業を超長期にわたり計画的に進め、さらには、この森が多くの人たちに親しまれ、関心を深めていただけるよう平成27年度の第1回に続き、「第2回木曾悠久の森写真コンテスト」を平成29年6月1日（木）から平成30年1月31日（水）まで開催しました。

また、写真コンテストの特別企画として、普段見ることのできない場所を探訪し、古くから伝わる伐採技法と周辺の木曾ヒノキ、サワラの立ち並ぶ森を見学しながら森林・風景等を写真におさめ、写真コンテストに出品していただく撮影会を10月30日（月）に東濃森林管理署管内で開催しました。

応募は、21名から65作品が寄せられ第1回より下回ったものの、樹齢300年を越える針葉樹等の雄姿をはじめ、森を流れる滝や沢、川べりの咲く花、鮮やかな紅葉、雪景色、さらには森林浴やレジャーなど森に親しむ人たちなど、四季折々に創り出す森林の豊かな表情をとらえた見事な力作でした。

3月7日（水）の審査会では、見事な作品ばかりで難航しましたが、その中でもより優れた10作品を入選作品とし、このうち1点は最優秀賞として選定しました。（入選作品は、30年5月頃開催の表彰式終了後に公表する予定です。）



写真コンテスト撮影会（10月30日）

3 間伐実施林分における更新種の発生状況に関する調査等

人工林から天然林へ復元する「コアb」では、森林のもつ公益的機能に支障が生じないように、間伐等の保育を適切に行うとともに、抜き切りを繰り返して林床の天然稚幼樹の発生・生長を促すなど、自然の推移を踏まえた超長期にわたる育成複層林施業等の実施を通じて、目標とする天然ヒノキ大径木を主体とした林型へ誘導することとしています。

当該箇所では林齢が120年を経過した林分において、平成25年の間伐に伴いヒノキ等の稚樹が発生していたことに着目し、高齢級間伐林分における更新状況等の把握とともに、木曾悠久の森の取組等に関する参考として、平成28～29年に木曾郡大桑村阿寺国有林にある「人工林ヒノキ優良林分展示林」での上木及び更新調査、整備を行っています。



人工林ヒノキ展示林（大桑村）

第3 NPO等との連携による自然再生の推進及び 森林環境教育等の支援

1 自然再生の推進

趣旨

NPO等との連携を図りつつ地域ニーズ等に対応した自然再生の取組みを推進し、自然再生活動事業を実施します。

(1) 木曾駒ヶ岳等における植生復元対策事業

① 事業概要

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや、大量の降雨、降雪等による砂礫の移動等により、高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺において、高山植物の現況と、将来的に荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを基に方針を立てボランティアの協力の下、平成17年度より植生復元事業を実施しています。

◎年度別マットによる敷設経過

年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (㎡)	参加者(人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 02	駒ヶ岳頂上山荘横(鞍部)	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36
25. 9. 12	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	140	29
26. 9. 11	頂上山荘横・伊那前岳方面の新規と補修	156	46
27. 10. 13	(荒天のため中止)		
28. 7. 20	天狗荘裏・頂上山荘周辺・伊那前岳方面	150	12
28. 9. 09	天狗荘周辺・伊那前岳方面	106	30
29. 9. 14	天狗荘裏	95	16
計		2,318	392

注) 参加者には、ボランティア、行政機関等が含まれる。

② 平成29年度の取り組みについて

事業開始の17年度実行箇所では、植生の回復は良好ですが、登山道沿いな

どの一部では回復が遅れていたことから、植生マットの再敷設による補修作業を実施しました。

また、近隣から完熟したミヤマクロスゲ、コメススキ等の種子を採取し、敷設地への播種も併せて行いました。

好天に恵まれ、地元長野県駒ヶ根市をはじめ関係署等の協力をいただき、予定していた作業を無事に終えることができました。

今回実施した箇所のように、以前に植生マットの敷設を行ったものの、マットの劣化や植生の回復が遅れている箇所が点在していることから、地域関係者等の協力を得ながら必要な作業を今後とも実施していくことにしています。



作業着手前の状況（7月27日）



資材の運搬



植生マットの敷設



種子のまきつけ（播種）



作業実施後の状況



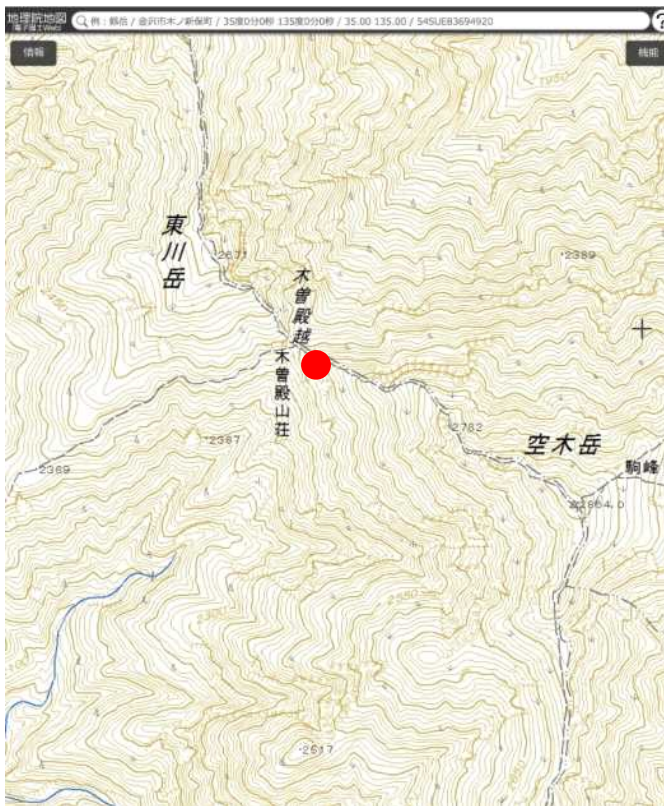
参加者全員で

③ うつぎだけ きそどのごえ 空木岳周辺（木曾殿越）での植生復元作業

木曾駒ヶ岳とともに中央アルプスの主峰である空木岳周辺（木曾殿越）でも、平成15～16年度にかけ、植生マットの敷設とマットの安定を図るため土嚢積み及び播種等の復元作業を実施しました。

10数年が経過していたこともあり、28年度に植生調査を行ったところ、播種効果により順調な回復を示す結果が得られましたが、風衝地に加え砂礫が堆積する箇所であることから、今年度より植生マットの再敷設と播種等の復元作業を行い、経過観察を始めることにしました。

現地までの移動時間は徒歩で5時間程度を要し、資材運搬の負担が大きいことから、職員実行として20平方メートルの敷設及び播種に止まりましたが、30年度においても同様の作業を計画し、植生回復の一助につながればと考えています。



植生復元箇所位置図

引用：地理院地図（電子国土Web）



現地の状況（上の写真は15年撮影、下は27年）



植生マットの敷設と播種（9月25日）

(2) 「城山史跡の森」 自然再生・NPO等活動拠点整備事業

「城山史跡の森」における「城山史跡の森倶楽部」及び地元自治体等との協働における森林整備及び森林環境教育の実施

木曾郡木曾町福島市街地の北西に位置する城山国有林は、戦国時代木曾氏によって築かれた山城である福島城跡や木曾義仲にまつわる権現滝など伝承のある史跡等に恵まれ、木曾福島駅から比較的短時間で木曾ヒノキ、サワラ、モミ等の大径木や季節ごとの植物観察等が気軽にできるコースとして県内外から観光客が訪れています。

「城山史跡の森倶楽部」が主体となって実施する「城山史跡の森」の森林整備、希少野生植物の保護活動等に対し、当センターでは支援、協力を行っています。

また、「城山史跡の森」は、木曾川下流域の人たちとの交流の場として活用されています。

① 長野県指定、希少野生植物の増殖・保護活動

城山国有林「城山史跡の森」には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマや、各地でも保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。

今年度は、ササユリとヤマシャクヤクの自生地において、「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんとともに、動物による食害防止のため電気柵の設置やカザグルマの蔓の巻き付け等の作業を行ってきました。



電気柵の設置



カザグルマ（つぼみ）

◎ カタクリの調査

平成25年度	41本を確認
平成26年度	41本を確認
平成27年度	54本を確認
平成28年度	22本を確認
平成29年度	37本を確認



カタクリ (29年5月)

◎ ヤマシャクヤクの調査

平成25年度	194本を確認
平成26年度	269本を確認
平成27年度	264本を確認
平成28年度	357本を確認 (個体)
平成29年度	207本を確認



ヤマシャクヤク (29年5月)

◎ カザグルマの調査

平成25年度	184本を確認
平成26年度	130本を確認
平成27年度	139本を確認
平成28年度	(整備中のため調査未実施)
平成29年度	70本を確認



カザグルマ（29年5月）

◎ ササユリの調査

平成25年度	24本を確認
平成26年度	34本を確認
平成27年度	27本を確認
平成28年度	29本を確認
平成29年度	32本を確認



電気柵内に開花するササユリ（29年6月）

② 「城山史跡の森倶楽部」等が行う遊歩道等の整備及び植物観察会活動への支援

城山史跡の森倶楽部は、「城山史跡の森」の国有林のうち、城山風致探勝林（レクリエーションの森）に指定されている区域について、平成16年度に木曾森林管理署と「城山史跡の森における森林整備等の活動に関する協定書」（対象面積77.9ha）を締結し、協定に基づき歩道や森林整備作業、地域や上下流域の交流を図りながら森林環境保全意識の啓発活動や多様な体験活動を実施しています。

当センターでは、同倶楽部の活動全体を支援する立場で、情報の提供や助言、現地案内、技術・安全指導、道具の貸与など協力を行っています。

ア 遊歩道等の整備

4月2日（日）観光シーズンを迎える前、自然散策等を安全かつ快適に楽しんでいただくため、城山史跡の森倶楽部会員とともに、「城山史跡の森」遊歩道等の整備を行いました。

雪解け間もない時期で、遊歩道には風倒木が点在し、また、林道沿いも崩落土が発生していたことから、これらの処理を中心に作業を行いました。



遊歩道等整備（風倒木の処理、崩落土の整地）

イ 自然観察会、小鳥の巣箱掛け等

【自然観察会】

木曽町環境協議会、城山史跡の森倶楽部共催による「きそネイチャーマイスター養成講座 城山史跡の森の珍しい植物を観よう！」と題した自然観察会が4月29日（土）に行われ、小学生など約30名が参加しました。自然観察会は、毎年、「城山史跡の森」（福島城跡一帯の国有林、県有林、寺社有林を総称）で行われており、当日は、倶楽部会員の案内で約8kmの行程を植物や史跡の説明に耳を傾けながら散策しました。



植物観察会の様子



城山が北限とされるイワタバコ

【小鳥の巣箱掛け】

11月19日（日）小鳥の巣箱掛け作業を城山史跡の森倶楽部会員など8名が参加して実施され、当センターからは4名が協力しました。

小鳥の巣箱掛けは平成21年度から毎年実施しており、当森林に多く棲むシジュウカラなどの小型鳥類を対象に巣箱を作成しています。

以前設置して古くなった巣箱28箱を取り外し、今年度地元の方が丹念に作成した新しい巣箱30箱を新たに設置しました。

取り外した巣箱には営巣や利用した形跡が確認されましたが、利用されていた巣箱は12箱と例年に比べて少ない状況でした。来年の繁殖期ではよりたくさんの小鳥たちに巣箱を利用してもらえるよう作業を行いました。



メタセコイアの林に掛けた巣箱



小鳥が利用した巣箱のようす

③「城山史跡の森」に生育する木曾五木のひとつ「コウヤマキ」の後継稚樹の育成

概要と状況

コウヤマキは日本固有の常緑針葉樹で、高野山に多くみられることからその名に由来するといわれ、一科一属一種の極めて特異な樹種です。

用途は建築、器具等に用いられ、水に強くて腐りにくい特徴から、古くから風呂桶や船舶等の用途にも使われています。



コウヤマキの稚樹

木曾谷地域でのコウヤマキの生育箇所は限られる中、「城山史跡の森」の遊歩道の沿線には群をなして生育している箇所があることから、天然稚樹の育成を目的として平成21～22年度に下木処理を行い、以降、稚幼樹の生長調査を実施しています。

第4 ニホンジカ対策

農林業への被害が全国的に深刻化しているニホンジカについて、長野県木曾地方では南部の南木曾町、大桑村から生息域が拡大し、今後、木曾谷国有林への被害が懸念されています。

こうした状況を踏まえ、当所では平成28年度から生息調査を開始し、今年度は新たな取り組みを関係団体、署等と連携して実施してきました。

1 センサーカメラによる生息調査

主に中央アルプスの主要峰へと通じる登山道沿い及び稜線（標高：1,382～2,738m）に4～11月までの間に計16台設置し、このうち6台で生息が確認され、内訳は木曾谷北部の塩尻市奈良井国有林で2台、南部の大桑村伊奈川国有林で4台でした。総台数に占める割合は約3割で、撮影頭数も全17頭で100日あたりに換算した撮影頭数は1.1頭と低い結果でしたが、28年度が極めて稀に撮影されていたことから、生息数が増加していることが考えられます。

また、高標高地では28年度に大桑村の^{きそどのごえ}木曾殿越付近（標高2,479m）でオスジカが確認されましたが、今年度も同地でオスジカが確認されたほか、約6km離れた^{みなみこすも}南越百山（標高2,499m）ではメスジカが確認されており、行動範囲も広まっていることが考えられます（表-1）。

山麓では、木曾町内の民有林と隣接するスギ人工林内（標高1,300m）で餌付誘引による捕獲試験を行うこととして、4箇所にセンサーカメラを3月下旬～12月末まで設置しました。極端に撮影頭数が少なかった1箇所を除き、毎月撮影され7～9月での出没傾向が高くなっていました。

また、撮影頭数は145頭にのぼり、内訳は、オスが82頭、メスが47頭、幼獣が1頭、性別が特定できない不明が15頭とメスジカの撮影頭数がオスジカに比べかなり低くなっていました。100日あたりの撮影頭数は0.9～24.1頭で4箇所の平均は14.3頭となり、登山道沿い等で設置した箇所に比べ格段に多くなっています（表-2）。

撮影されたシカは1～2頭で、この地域で群れを形成しているといった結論には至りませんでした。山麓では相当数のシカが確認されたことで、個体数増加の抑制の必要性をあらためて実感したところです。



オスジカ（塩尻市 奈良井国有林）



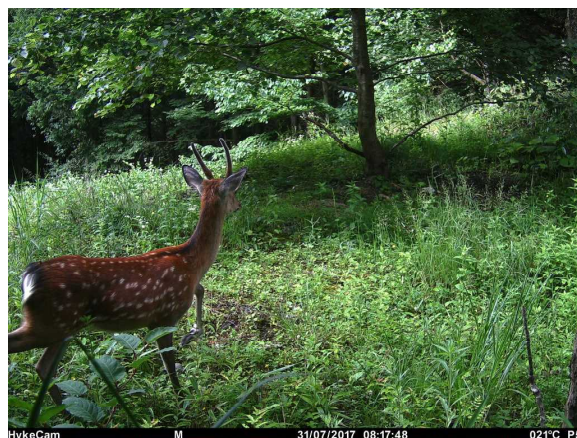
メスジカ（大桑村 南越百山）

表－１ 中央アルプス登山道沿い、稜線での出現状況

台数	撮影頭数					設置日数	100日あたりの撮影頭数
	オス	メス	幼獣	不明	計		
16	6	5	1	5	17	1,583	1.1

表－２ 中央アルプス山麓での出現状況

台数	撮影頭数					設置日数	100日あたりの撮影頭数
	オス	メス	幼獣	不明	計		
4	82	47	1	15	145	1,016	14.3



中央アルプス山麓（木曾町）でのニホンジカ

2 ライトセンサスの実施

山麓部でのカメラ設置と同時に、近隣署等で実施していたニホンジカのライトセンサスを長野県木曾地域振興局、木曾森林管理署と合同で5～12月の間、月1回の割合で実施しました。

広域幹線林道沿いを中心に日没後から2時間程度行いましたが、ニホンジカを目撃には至らず、特に、10月末以降はその他の動物も目撃されない状況でした。

実施した林道の法面が急傾斜に加え、雑草の繁茂などに林内の見通しが利かない状況であったことが要因として挙げられますが、夕刻から数時間程度の間はニホンジカをはじめとして活発に行動していないことも考えられたところです。



実施状況（木曾町）



カモシカ（5月31日）

3 捕獲実証試験

山麓での生息状況を踏まえ、餌付誘引による捕獲試験を始めました。

5～7月、10・11・1月の延べ118日間で行われた木曾森林管理署と地元の木曾猟友会福島支部との有害鳥獣捕獲委託事業では、オスジカ3頭、メスジカ2頭の5頭が捕獲されたところですが、一方で、ツキノワグマの錯誤捕獲も5頭となりました。中央アルプス山麓のみならず、木曾地方ではツキノワグマの生息が多数確認されており、錯誤捕獲による人件費等の増加が課題となっています。

実証試験では、主にメスジカを対象とした首用くくりわなの設置を5月に、クマによる錯誤捕獲防止のための足用バネなしくくりわなを12月に、それぞれ木曾猟友会及び木曾森林管理署等と連携して設置しました。

5月の捕獲試験は草花の若葉が咲く時期で誘引材への関心を示すニホンジカがほとんど現れず、また、12月は地表の凍結と降雪期が重なり、後の判明となりましたが、里山へ下りたものと見受けられ具体の成果とはならず（捕獲ゼロ）、設置する時期や場所などの課題が多く見えたところです。また、最近では人間に対する警戒心がより高い「スレジカ」の存在もあり、創意工夫をもって効果的な捕獲に今後とも取り組んでいきたいと考えています。



くくりわなの設置（木曾町） 首用（写真左）、バネなし足用（写真右）

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	2	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曾町「城山史跡の森」)
	6	長野県林業大学校入学式(木曾町)
	6	長野県木曾清峰高校入学式(木曾町)
	22	NPO木曾川・水の始発駅総会(木祖村)
	23	NPO木曾ひのきの森総会(上松町)
	29	きそネイチャーマイスター養成講座実習 植物観察会(木曾町「城山史跡の森」)
	29	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー開始(上松町「赤沢自然休養林」)
5	8	城山史跡の森 ヤマシャクヤク、ササユリ、カザグルマ自生地整備(木曾町「城山史跡の森」)
	9	長野県上松技術専門学校 林業体験(上松町「赤沢自然休養林」)
	10	上松町森林・林業・林残業活性化議員連盟 赤沢自然休養林視察(上松町「赤沢自然休養林」)
	13	木祖村・日進市合同育樹祭(木祖村)
	13	平成の名古屋市民の森づくり(木曾町)
	16	愛知県犬山中学校木曾総合学習(上松町「赤沢自然休養林」)
	16	木曾福島林業振興会総会(木曾町)
	18	城山史跡の森 ヤマシャクヤク自生地調査(木曾町「城山史跡の森」)
	24	城山史跡の森 カザグルマ自生地調査(木曾町「城山史跡の森」)
	25	木曾の国有林見学会(上松町「赤沢自然休養林」)
	26	長野県木曾青峰高校体験学習(上松町「赤沢自然休養林」)
	28	第53回 信州木曾上松・赤沢森林浴大会(上松町「赤沢自然休養林」)
	31	第1回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町)
6	1	木曾郡植樹祭 王滝村・水と緑の感謝祭合同育樹祭(王滝村)
	3	NPO緑の挑戦者 第1回森造り協力事業(木祖村)
	4	NPO地球緑化センター 「山と緑の協力隊」赤沢プログラム(上松町「赤沢自然休養林」)
	8	森林・林業体験交流促進対策第1回検討委員会(王滝村)
	10	中日親友隊 森林ボランティア作業(王滝村)
	13	城山史跡の森 ササユリ・ヤマシャクヤク自生地調査(木曾町「城山史跡の森」)
	14	「木曾悠久の森」管理委員会(中津川市)
	23	城山史跡の森 ササユリ自生地調査(木曾町「城山史跡の森」)
	24	赤沢ガイド養成講座(上松町「赤沢自然休養林」)
	30	高山植物保護管理協議会木曾地区総会(上松町)
7	2	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曾町「城山史跡の森」)
	3	第2回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町)

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
7	4・20	フォレストワーカー(緑の雇用研修)(上松町「赤沢自然休養林」)
	11～12	「木曾悠久の森」管理委員会(上松町、王滝村)
	19	ゴミゼロ運動(上松町)
	28	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー終了(上松町「赤沢自然休養林」)
	31	木曾地区みどりの少年団交流集会(木祖村「こだまの森」)
8	2	高山植物等保護合同パトロール(木曾町)
	3	第3回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町)
	4	木曾山林協会林業職員部会技術研修会(上松町「赤沢自然休養林」)
	7	教職員を対象とした森林・林業学習会(上松町「赤沢自然休養林」)
	8	愛知県立阿久比高校森林ボランティア(王滝村)【台風により中止】
	9	鳥獣保護と狩猟に関する講習会(上松町)
	24	木曾町・木曾森林管理署林政懇談会(木曾町)
	29	第4回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町)
30	「木曾悠久の森」管理委員会(中津川市)	
9	9	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曾町「城山史跡の森」)
	14	中央アルプス木曾駒ヶ岳植生復元作業
	16	みよし市友好の森ふれあいツアー(木曾町「みよし市友好の森」)
	25	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー開始(上松町「赤沢自然休養林」)
	29	第5回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町)
10	2	国有林等所在市町村長有志連絡協議会木曾地区総会(上松町)
	8	熱田区区民まつり(名古屋市)
	8	第54回 信州木曾上松・赤沢森林浴大会(上松町「赤沢自然休養林」)
	13～14	森林ボランティア・NPO連絡推進会議(下諏訪町)
	15	NPO地球緑化センター「山と緑の協力隊」赤沢プログラム(上松町「赤沢自然休養林」)
	21	緑の挑戦者森林整備ボランティア作業(木曾町)【台風により中止】
	24	木曾の国有林見学会(上松町「赤沢自然休養林」)
	26～27	中部森林管理局・森林総合研究所 技術交流会(上松町・木祖村「水木沢天然林」)
	30	「木曾悠久の森」写真コンテスト撮影会(中津川市)
31	第6回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町)	
11	1	中山道 木曾十一宿パズルラリー開始(塩尻市贄川宿～中津川市馬籠宿)
	7	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー終了(上松町「赤沢自然休養林」)
	12	木曾路トレッキングパズルラリー終了

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
11	16	城山史跡の森 コウヤマキ更新調査(木曽町)
	19	城山史跡の森 小鳥の巣箱点検、ヤマシャクヤク、ササユリ自生地整備(木曽町「城山史跡の森」)
	27	第7回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町)
12	1	ニホンジカ対策 誘導柵設置(木曽町)
	26	第8回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町)
1	10	カラマツ林業等研究発表会(塩尻市)
	30~31	中部森林技術交流発表会(長野市)
2	21	長野林政協議会木曽谷流域部会(木曽町)
	27	森林ボランティア・NPO連絡推進会議実行委員会(下諏訪町)
	28	木曽谷の野生獣害対策講演会(木曽町)
3	2	林業大学校卒業式(木曽町)
	3	木曽清峰高校卒業式(木曽町)
	6	「木曽悠久の森」管理委員会(上松町)
	7	第2回「木曽悠久の森」写真コンテスト審査会(上松町)
	9	森林・林業体験交流促進対策第2回検討委員会(王滝村)
	19	城山史跡の森倶楽部総会(木曽町)
	28	阿寺国有林試験地調査(大桑村)